

公益財団法人日本バレーボール協会
第1期事業報告書
(2011年2月1日～2011年3月31日)

1. 事業の概況

本会は、公益法人制度改革に伴う法人移行を2月1日に行い、公益財団法人日本バレーボール協会に生まれ変わった。

公益財団法人の第1期は、法令の定めにより年度途中から開始することになり、そのため2月1日から3月31日までの2カ月間の事業報告となる。

本会の諸事業は、例年1月までに一部事業を残しほぼ終了する。2～3月は諸事業の成果確認及び次年度事業の準備等を行うが、当期は3月11日に発生した東日本大震災の対応に追われ、例年とは大きく違う状況となった。

大会運営の研修等を行う全国競技委員長研修会の急きょ取りやめ、さらには大会開催中止を余儀なくされるなど、その影響には計り知れないものがあった。

この結果、当期の経常費用は例年より少ない205,990千円となり、年間費用2,457,526千円の8.4%を占める程度であった。

なお、当期の正味財産減少額（赤字額）は14,105千円となったが、移行前の10カ月及び移行後の2カ月を合わせた年間合計では、経常収益2,485,103千円、経常費用2,457,526千円、税引前正味財産増加額（黒字額）は27,577千円となり、法人税、住民税及び事業税26,159千円計上後の正味財産増加額は1,418千円となった。

2. 事業内容

(1) 競技力向上事業及び競技力向上に係る日本代表選手団国際大会派遣事業

①日本代表チーム及び選手の育成・強化事業

主に大学生、高校生の中から選抜された有力選手による日本代表チームを編成し、国際競技力向上を図るため以下の諸事業を行った。

1) ユニバーシアード男子・女子日本代表チーム強化合宿

2011年度に開催されるユニバーシアード大会でのメダル獲得を目標として選手強化合宿を行った。

＊男子 国内合宿・ナショナルトレーニングセンター（以下NTCという）を主会場として4日間（2/10～2/13）実施。

＊女子 国内合宿・NTCを主会場として5日間（2/28～3/4）実施。

（注1・ユニバーシアードチームとは主に大学生を中心に構成された日本代表チームである。）

2) ジュニア男子・女子日本代表チーム強化合宿

2011年度に開催される世界選手権でのメダル獲得を目標として、選手強化合

宿を行った。

*男子 国内合宿・NTC を主会場として 4 日間 (2/19～2/22) 実施。

*女子 国内合宿・NTC を主会場として 5 日間 (2/21～2/25) 実施。

(ジュニア、ユース合同チームで実施)

(注 2・ジュニアチームとは主に 20 歳以下の選手を中心に構成された日本代表チームである。)

3) ビーチバレー日本代表選手強化合宿

2011 年度に開催される FIVB ワールドツアーでの上位入賞を目標に国内および海外での選手強化合宿を行った。

*国内合宿 女子 沖縄にて 22 日間 (3/10～3/31) 実施。

*海外合宿 男子 アメリカ・ロサンゼルスにて 22 日間 (3/8～3/29) 実施。

②将来性を有する選手の発掘及び育成強化事業

1) バレーボールアカデミー事業

全国からオーディション等で選抜された中学生をトレーニングセンターに集め、アカデミープログラムに基づき、トップレベルの指導体制による強化合宿を引き続き実施した。

③競技力向上にかかるバレーボール技術の調査研究

1) 日本代表チームスタッフによる海外視察および情報収集を行い、情報分析並びに日本チームとの対戦が想定される外国チームの戦力掌握を行った。

2) アンチ・ドーピングの啓発・普及のため、国内リーグ (Vリーグ) においてドーピング検査を行った。

(2) 国際大会開催事業及び国際貢献・交流事業

①国際大会開催事業

1) ワールドカップ 2011 開催調整

本年 11 月に日本で行われる FIVB ワールドカップ 2011 の開催地における試合会場及び選手宿泊ホテル、練習会場、移動アクセスが、国際バレーボール連盟 (以下「FIVB」という。) の大会開催基準に合致しているか等、FIVB 委員、本会委員及び開催地委員と合同でチェックを行うため、FIVB インспекションの受入れ実施。

FIVB インспекション実施期間：2 月 12 日～2 月 22 日

参加者：国際バレーボール連盟第副会長 2 名 + FIVB 担当副部長 1 名

JVA 役員・スタッフ 3～5 名、開催地協会役員 (東京・富山・熊本・鹿児島・長野・岡山・札幌・仙台)

②国際貢献・交流事業

1) アジアバレーボール連盟(AVC)委員派遣事業

アジアの統轄組織である AVC の各種委員会会議に、本会の代表を派遣。

派遣期間：2月14日～2月19日

派遣人員：スポーツ委員会、審判委員会、医事委員会、マーケティング委員会の各委員計4名

2) 国際交流事業

ユース女子チームをアメリカに派遣し、同国ユースチームとの親善試合を行い、青少年レベルの交流を行った。

派遣期間：2月25日～3月5日

派遣場所：アメリカ/アナハイム（ナショナルトレーニングセンター）

派遣人員：16名（選手12名、スタッフ4名）

(3) 講習会開催事業、指導者、審判員等養成及び資格認定・登録事業

①講習会（バレーボール教室）開催事業

2010年度事業は全て終了しており、当期に開催した事業はない。

②指導者養成事業

本会及び加盟団体の指導普及委員長が一堂に会し、指導者養成に関する以下の会議を行った。

全国指導普及委員長会議・研修会

日程：3月5日～6日 会場：東京都 参加者数：66名

この委員長会議では2010年度事業の報告と2011年度事業の計画を調整した。日程、会場が現状では調整中の事業もあるが、指導者の育成、バレーボールの普及を主眼に事業調整を行った。

③審判員等養成事業

1) 本会及び加盟団体の審判委員長が一堂に会し、審判員養成等に関する以下の研修会を行う予定だったが、東日本大震災の影響により中止とした。

このため3月26日に委員会の主要メンバーにて2011年度事業の確認を行い、加盟団体には書類にて通知した。

全国審判委員長研修会

日程：3月26日 会場：東京都 参加者見込数：70名（中止）

2) 全国6人制審判講習会

日程：3月27日 会場：東京都 参加者見込数：250名（中止）

④指導者等資格認定事業

2010年度事業は全て終了しており、当期に開催した事業はない。

⑤小学校体育科教材支援事業

小学校の体育の授業に採用されたソフトバレーについて、先生方を対象とした指導

リーフレットを作成、全国の小学校に配布するとともに、講習会等を開催した。

(4) 全国大会等国内競技会開催事業

① ローソンカップ家庭婦人大会

東日本大震災の影響により中止とした。

全国家庭婦人バレーボール連盟の主管により、以下内容で開催する予定であった。

日程：3月24日～27日 会場：広島 参加者見込数：720名（中止）

② 全国競技委員長研修会

本会及び加盟団体の競技委員長が一堂に会し、競技会開催に関する以下の研修会の開催を予定していたが東日本大震災の影響により中止とした。このため3月12、13日に委員会の主要メンバーにて2011年度事業の確認を行い、加盟団体には書類にて通知した。

全国競技委員長研修会

日程：3月12日～13日 会場：東京都 参加者見込数：70名（中止）

(5) 地域グループ育成強化事業

本会の加盟団体である都道府県バレーボール協会及び全国的に組織されたバレーボール競技団体の育成、強化を目的に、団体運営ほか各種の支援を行った。

(6) マーケティング事業

バレーボールの社会的な価値や本会事業の推進に賛同いただいている協賛社とのパートナーシップの強化及び新規協賛社の獲得に向け積極的に活動した。

2月1日からの商標の変更に伴う諸作業を実施した。

(7) バレーボール用品・用具の公認及び公認物品販売事業

競技の公正、安全ほか競技者が安心して楽しくプレーできるように、ボール、ネットほか用品・用具の検定及び認定を行うとともに、バレーボール観戦を通して個人としてのマナー、エチケットなど、豊かな人間性を育むことを目的に、本会公認物品の販売を行った。

(8) 出版物等販売事業

バレーボールの愛好者、審判員、指導者をはじめとする多くの国民に対し、最新のルール情報を提供するために、公認ルールブックであるバレーボール6人制競技規則、同9人制規則、ソフトバレーボール競技規則、ビーチバレーボール競技規則の2011年度版を3月に出版販売した。

(9) Vリーグ開催及び開催支援事業

一般社団法人日本バレーボールリーグ機構が主催するVリーグについて、東京における開催権を取得し、バレーボールの普及、振興及び本会が行う公益目的事業の遂行に必要な財源調達を図ることを目的として3大会の開催を予定していた。

このうち2大会（女子大会レギュラーラウンド：2月19・20日、男子大会レギュラーラウンド：3月5・6日）は無事終了し、首都圏の愛好者にバレーボールの醍醐味を伝えることができた。しかし、残りの1大会（女子大会セミファイナルラウンド：3月25・26・27日）は東日本大震災の影響により開催を中止した。

以 上